

東久留米市立第九小学校 第1学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	拗音や促音を正しく理解できていない児童がいる。	補助プリントを活用し、繰り返し練習する。	学期末のテストで、拗音や促音など基本的な表記ができる児童を全体の90%以上にする。
	書字に苦手意識が強い児童がいる。	書く量を減らすなど当該児童に合った支援をしつつ、丁寧に指導をしていく。	全体の80%以上の児童が自ら意欲的に書くことができるようにする。
	語彙力が乏しく、頭で想像していることがあっても伝えることに苦手意識がある。	新出単語の説明や使い方、言葉集めや言い換えなど、児童が言葉に興味をもてる工夫をする。	全体の80%以上の児童が言葉の意味を正しく理解し、自ら使うことができるようにする。
算数	ノートの書き方が乱雑になりがちな児童がいる。	書き方のモデリングをし、見やすいノートを目指すよう繰り返し伝えていく。	ノートを集め、90%以上の児童が見やすいノートを書けるようにする。
	計算の速度や習熟度に大きな差がある。	計算カードを使って反復学習し、習熟を図っていく。	計算単元では週に2時間、どの程度計算ができていくか個別で評価し80%以上の習熟を目指す。
	文章問題で、具体的な場面を想起したり、立式したりすることが難しい児童がいる。	具体物を使ったり絵に表したりして問題を把握させる。キーワードを立式のヒントにする。	学期末のテストで、文章問題の立式ができる児童を全体の80%以上にする。
生活	諸感覚を用いて観察するのではなく、自分の想像で絵を描く児童がいる。	観察の視点を事前指導し、五感を使って観察することができるようカードに視点を入れる。	五感を使って観察することができる児童を全体の80%以上にする。
	自分でよく考えて意欲的に取り組む児童と指示された通りにのみ取り組む児童がいる。	おさえることは確認するが、児童が自由に考えて実践できる環境、材料の用意をする。	全体の80%以上の児童が振り返りシートで意欲的に取り組んだと評価できるようにする。
	課題解決に向けて自分や友達と考える力が弱く、すぐに大人に正解を求める児童がいる。	視点を提示し、自分で考える時間や友達と相談する時間を確保する。	全体の80%以上の児童が工夫点を発表したり記述したりすることができるようにする。
特別の教科 道徳	課題に対して自分の考えをもつことが難しい児童がいる。	自分の経験を想起する時間を確保し共有する。動作化や吹き出しを活用し書きやすくする。	ワークシートの記述内容で評価する。全体の90%以上の児童が考えを書けるようにする。
	道徳の学習で話し合ったり考えたりしたことが、実生活に結びつかない児童がいる。	授業のみではなく、学校生活の中でも継続的に学習したことを振り返る場面や掲示を作る。	全体の80%以上の児童が起きた状況に対して適切な行動や発言ができるようにする。
	自分と異なる考えをした友達の意見を受け止めることが苦手な児童がいる。	友達の考えを聞く時間を確保し、葛藤があることや様々な捉え方があることに気付かせる。	全体の80%以上の児童が友達の意見を聞いて受け止め、反応することができるようにする。